

令和5年度 全国学力・学習状況調査の松本市における結果〔概要〕

調査概要

- ◇調査対象：小学校第6学年、中学校第3学年
- ◇調査実施日：令和5年4月18日（火曜日）
- ◇調査内容：① 教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語（中学校のみ）〕
② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童質問紙、生徒質問紙）
- ◇今年度調査の特徴： 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のメッセージが込められた出題がされた。中学校英語では、令和元（平成31）年以来の「話すこと」に関する調査が、一人一台端末を利用して実施された。

教科に関する調査結果概要

- ◇平均正答率： 平均正答率は、小学校・中学校ともにすべての教科において、全国（公立）の平均正答率を上回っているものの、ほぼ同程度である。
- ◇領域別状況： 学習指導要領の領域等の平均正答率は、小学校国語「話すこと・聞くこと」、中学校国語「我が国の言語文化に関する事項」、中学校数学「データの活用」などにおいて、全国の平均正答率と比べてやや高い状況である。中学校英語「話すこと（やりとり）」については、全国とほぼ同程度である。
- ◇正答率の割合： 正答率4割以下の児童生徒の割合は、全ての教科において、全国の割合と比べてやや少ない状況である。つまり、正答率4割以下の児童生徒数が少ないことが、平均正答率を押し上げる主な要因になっていると考えられる。一方で、正答率8割以上の児童生徒の割合は、全国の割合とほぼ同程度である。
- ◇問題形式： 問題の形式は、選択式、短答式、記述式の3種類である。記述式では、根拠を明らかにして記述したり、答えを導く方法を説明したりする問題が出題された。小学校の国語や算数、中学校の国語や数学では、記述式の問題において正答率が全国をやや上回ったものが多かった。一方、中学校の英語では、記述式の問題における正答率は、いずれも全国を下回った。

公表に当たりの基本方針

- 各教科の「課題及び指導改善に向けて」（17頁～）では、特に課題と思われる問題を取り上げ、「（1）課題が見られた問題について」と「（2）指導の改善・充実に向けて」の2つ項目で、問題の趣旨や解答状況、授業改善の具体的な方向を示しました。
- 「知識・技能」に関する表記については、正答率8割程度を目安に「定着している」、6割未満を「課題がある」としました。「思考力・判断力・表現力等」に関する表記については、正答率7割程度を目安に「身に付いている」、5割未満を「課題がある」としました。
- 生活習慣等に関する質問紙調査については、全体的な傾向や主な特徴等をまとめました。全国との比較を示す数値については、その差を「ポイント」という表現を使っています。（例：全国が30%、松本市40%の場合、松本市は全国を「10ポイント上回る」と表現しています。）
- 本調査は、国語、算数・数学、英語の3教科のみであるため、学習指導要領全体を網羅しているものではありません。また、本調査は児童生徒が身に付けるべき学力の一部を調査したものであることにご留意ください。
- 国立教育政策研究所のホームページのデータを利用して作成しています。また、一部の画像等は、「令和5年度全国学力・学習状況調査」の調査問題より引用しています。

問い合わせ先 【部課名】 松本市教育委員会 学校教育課 学校支援室
【連絡先】 電話：0263-33-4397 FAX：0263-34-3206

1 教科に関する調査結果

1(1) 小学校国語

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

各設問に対する正答率と全国平均正答率とを比べると、14問中10問で全国平均を上回っている。特に、インタビューの場面で必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉えることがよく身に付いている。しかし、以下の①～③については課題が見られた。

- ① 原因と結果など情報と情報との関係について理解することに関しては、正答率約6割でおおむね定着しているが、全国と比較するとやや下回っている。

調査問題 1 一 米作りの時に記録していたカード②とカード③の下線部の関係として適切なものを解答する選択式問題

知識・技能
情報の扱い方に関する事項

川村さんは、カードを選んだ際に、【カード②】の____部と、【カード③】の____部に関係があることに気がきました。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 【カード②】の____部は部分、【カード③】の____部は全体について書かれている。
- 2 【カード②】の____部は結果、【カード③】の____部は原因について書かれている。
- 3 【カード②】の____部は目標、【カード③】の____部は計画について書かれている。
- 4 【カード②】の____部は考え、【カード③】の____部は事例について書かれている。

詳細は
18頁 <課題及び指導改善に向けて>

(正答) 2

- ② 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに関しては、全国と比較するとほぼ同程度であるものの、正答率3割未満でかなり課題がある。

調査問題 1 二 川村さんの文章の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く記述式問題

思考力・表現力・判断力等
書くこと

川村さんは、選んだカードをもとに、次の【川村さんの文章】の□に学校の米作りの問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、□に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

- <条件>
- 学校の米作りの問題点については、【川村さんの文章】のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と【カード④】のそれぞれから分かることを書くこと。
 - 問題点の解決方法については、【カード⑤】をもとにして書くこと。
 - 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

詳細は
19頁 <課題及び指導改善に向けて>

(正答例)
・グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。

- ③ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに関しては、全国と比較するとほぼ同程度であるものの、正答率約5割で課題がある。

調査問題 1 三 ア

知識・技能
言葉の特徴や使い方に関する事項

川村さんは、【川村さんの文章】を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた下線部を漢字に書き直すことにしました。

・雑草取りを続けたのですが、 いがい に雑草が生えてきて、とてもこまりました。

詳細は
19頁 <課題及び指導改善に向けて>

(正答) 意外

1 (2) 中学校国語

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

各設問に対する正答率と全国平均正答率とを比べると、15問中10問で全国平均を上回っている。特に、我が国の言語文化に関する事項について理解することができている。しかし、以下の②③については課題が見られた。

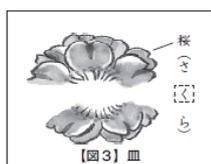
- ① 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに関しては、正答率約8割で身に付いており、全国を上回っている。

調査問題 ③ 四

『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く記述式問題

思考力・表現力・判断力等
書くこと

山田さんは、「■『判じ絵』の解説の面白さ」に【図3】としてもう一つ具体例を示して、解説の仕方を説明しようとしています。あなたなら、どのように書きますか。次の〈候補〉のA、Bから一つ選び（どちらの〈候補〉を選んでもかまいません。）、【図3】は、に続けて、【図2】の説明の仕方を参考にして書きなさい。



(正答例)

A
 (【図3】は、)真ん中が消えている桜が描かれている。「さくら」という言葉の真ん中の「く」を消して解説すると、食事で使う「皿」という意味になる。

- ② 具体と抽象など情報と情報との関係について理解していることに関しては、全国と比較するとやや上回っているものの、正答率約6割で課題がある。

調査問題 ③ 三

『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く短答式問題

知識・技能
情報の扱い方に関する事項

中山さんは、【A】や【B】の文章で述べられていることを参考にして、自分の本の読み方について考えました。あなたなら、これからどのように本を読みたいと考えますか。次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 【A】か【B】、またはその両方の文章から、自分が着目したところを抜き出しなさい。

イ アを踏まえ、読書に関する経験や知識に触れながら、これからどのように本を読みたいかを具体的に書きなさい。

(正答例)

・分ける箇所 (ウ)
 ・見出し(例) 「判じ絵」の歴史

詳細は
21頁

<課題及び指導改善に向けて>

- ③ 文脈に即して漢字を正しく書くことに関しては、正答率4割未満でかなり課題があり、全国と比較しても下回っている。

調査問題 ③ 二

「おし量って」の下線部のひらがなを漢字で書く短答式問題

知識・技能
言葉の特徴や使い方に関する事項

(本文より抜粋) 解説する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「おし量って考える」が必要になる。

(正答) 推

1 (3) 小学校算数

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

各設問に対する正答率と全国平均正答率とを比べると、16問中8問で全国平均を上回っている。特に、加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができている。しかし、以下の②③については課題が見られた。

- ① 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることに関しては、正答率約8割で定着しており、全国と比較すると上回っている。

調査問題 ③ (3)

(151+49)×3 と 151×3+49×3 を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める短答式問題

知識・技能

4年
数と計算

けんたさんは、下の①と②の計算について考えています。それぞれの計算の答えを書きましょう。

① $(151+49) \times 3$

② $151 \times 3 + 49 \times 3$

(正答) ① 600

② 600

- ② (2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることに関しては、正答率5割未満で課題があり、全国と比較してもやや下回っている。

調査問題 ③ (4)

66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位にあたる式を解答する選択式問題

思考力・表現力・判断力等

3年、4年
数と計算

【けんたさんの説明】をもとにすると、66÷3の計算を、右のように考えることもできます。

【66÷3の筆算】の手順2で十の位にたてた「2」は、上の式のあ、い、う、えのどの計算をした結果を表していますか。1つ選んで、その記号を書きましょう。

$$\begin{aligned} 66 \div 3 &= (60 + 6) \div 3 \\ &= \underbrace{60}_{\text{あ}} \div 3 + \underbrace{6}_{\text{う}} \div 3 \\ &= \underbrace{20}_{\text{い}} + \underbrace{2}_{\text{え}} \\ &= 22 \end{aligned}$$

手順2

$$\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \\ 0 \end{array}$$

(正答) い

詳細は
22頁

<課題及び指導改善に向けて>

- ③ 百分率で表された割合について理解することに関しては、正答率約4割でかなり課題があり、全国と比較しても下回っている。

調査問題 ④ (1)

示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを解答する選択式問題

知識・技能

5年
変化と関係

30%について考えます。割合が30%になるものを、下のアからオまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

ア 100人をもとにした0.3人の割合

イ 100人をもとにした3人の割合

ウ 100人をもとにした30人の割合

エ 10人をもとにした3人の割合

オ 30人をもとにした1人の割合

(正答) ウ、エ

詳細は
23頁

<課題及び指導改善に向けて>

1(4) 中学校数学

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

各設問に対する正答率と全国平均正答率とを比べると、15問中10問で全国平均を上回っている。特に、数の処理についての問題場面から必要な情報を読み取り、考察の対象を明確に捉えることができている。しかし、以下の①～③については課題が見られた。

- ① 自然数の意味を理解することに関しては、全国とほぼ同程度であるものの、正答率5割未満で課題がある。

調査問題 ① -5、0、3、4.7、9の中から自然数をすべて解答する選択式問題

知識・技能

1年
数と式

下のアからオまでの数の中から自然数をすべて選びなさい。

- ア -5
イ 0
ウ 3
エ 4.7
オ 9

(正答)
ウ、オ

- ② 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに関しては、全国と比較するとやや上回っているものの、かなり課題があり、準正答を除く正答の割合は約2割である。

調査問題 ⑦(2)

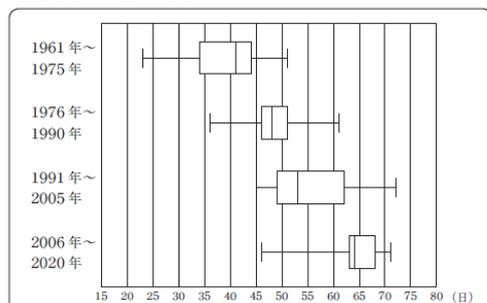
「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱の位置や大きさに着目して説明する記述式問題

思考力・判断力・表現力等

2年
データの活用

箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。

黄葉日までの経過日数の分布



	経過日数(日)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
1961年～1975年	23	34	41	44	51
1976年～1990年	36	46	48	51	61
1991年～2005年	45	49	53	62	72
2006年～2020年	46	63	64	68	71

一花さん「4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向がありそうだね。」

啓太さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」

一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

(正答例)

1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。

③ 条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取る
 ことに関しては、全国と比較するとやや上回っているものの、正答率4割未満でか
 なり課題がある。

調査問題 9 (2)

二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く短答式問題

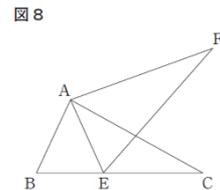
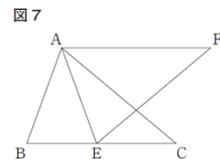
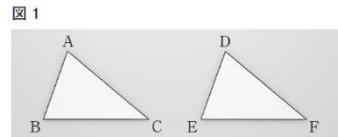
知識・技能
 2年
 図形

優奈さんは、(調査問題20ページの)方法2の直線BCと直線AFが平行になるかどうかを調べるために、次の図7をかきました。図7の△ABCと△AEFは、それぞれCA=CB、FA=FEで、△ABC≡△AEFです。この図において、優奈さんはBC // AFであることを証明することにしました。

BC // AFであることは、次のように証明できます。

証明1

△ABC≡△AEFより、合同な図形の対応する辺と角はそれぞれ等しいから、
 $AB=AE$ ……①
 $\angle ABC=\angle AEF$ ……②
 △AEFにおいて、二等辺三角形の底角は等しいから、
 $\angle EAF=\angle AEF$ ……③
 ②、③より、
 $\angle ABC=\angle EAF$ ……④
 また、①より、△ABEは二等辺三角形である。
 二等辺三角形の底角は等しいから、
 $\angle ABE=\angle AEB$ ……⑤
 $\angle ABE=\angle ABC$ だから、④、⑤より、
 $\angle EAF=\angle AEB$
 よって、錯角が等しいから、
 $BC // AF$



次に、優奈さんは、(調査問題19ページの)図1の2つの三角形を△ABC≡△DEFであることは変えずに、二等辺三角形ではない三角形に変えました。この場合も方法2でひいた2つの直線が平行になるかどうかを確かめたところ、2つの直線は平行になりませんでした。なぜ平行にならなくなったのかを調べるために、次の図8をかきました。図8の△ABCと△AEFは二等辺三角形ではなく、△ABC≡△AEFです。

優奈さんは、図8でBC // AFとならないのは、(調査問題21ページの)証明1の①から⑤のどれかが成り立たないからだと考えました。図8のような二等辺三角形ではない合同な2つの三角形の場合には、 $\angle EAF=\angle AEB$ とならないため、BC // AFとなりません。このことは、証明1をもとに、次のように説明することができます。

二等辺三角形ではない合同な2つの三角形の場合には、証明1の□I□が成り立たないから、□II□が成り立たない。よって、 $\angle EAF=\angle AEB$ とならないから、BC // AFとならない。

上の□I□には証明1の①、②、③のどれか1つが、□II□には証明1の④、⑤のどちらか1つが当てはまります。□I□、□II□に当てはまるものをそれぞれ書きなさい。

詳細は
 25頁 <課題及び指導改善に向けて>

(正答) I ③ II ④

1(5) 中学校英語

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

各設問に対する正答率と全国平均正答率とを比べると、22問中11問で全国平均を上回っている。特に、情報を正確に聞き取ることについては、おおむね定着している。しかし、以下の①～③については課題が見られた。

- ① 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることに関しては、全国とほぼ同程度であるものの、正答率4割未満でかなり課題がある。

調査問題 6

友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを解答する選択式問題

知識・技能
読むこと

次の英文は、友達のデイビッド (David) があなたに送ったメールです。メールを読んで、デイビッドにおすすめのイベントとして最も適切なものを、右の1から4までのの中から1つ選びなさい。

Events on the Weekend	
Date	April 13, 2023 18:45
From	David
<p>Hello. How are you? I'm excited to stay at your house this weekend.</p> <p>I hear your town has some events on the weekend. I want to join one of them with you. Which event is the best? We both love sports, music, and cooking, right? Let's choose from among them.</p> <p>I will arrive on Saturday afternoon. I have to leave before 4 p.m. on Sunday because I will have dinner with my family.</p> <p>I'm looking forward to seeing you soon.</p>	

1 Rugby Game



Let's watch together!

Date & Time

Saturday, April 15
9:30 a.m. - 11:30 a.m.

Place

Midori Park

2 Flower Market



You can buy beautiful flowers!

Date & Time

Saturday, April 15
9:00 a.m. - 4:00 p.m.

Place

Hikari Garden

3 City Orchestra



You can enjoy a wonderful performance!

Date & Time

Sunday, April 16
1:00 p.m. - 3:00 p.m.

Place

Tsubomi Hall

4 "Cook & Eat"



Let's enjoy cooking and eating!

Date & Time

Sunday, April 16
4:00 p.m. - 7:00 p.m.

Place

Cooking Room "Wakaba"

詳細は
26頁

<課題及び指導改善に向けて>

(正答) 3

- ② 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに関しては、全国とほぼ同程度であるものの、正答率 1 割未満でかなり課題がある。

調査問題 10

学校生活の中から紹介したいものを 1 つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く問題

思考力・判断力・表現力等
書くこと

あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを開いています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを 1 つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を 25 語以上の英語で書きなさい。

(正答例)

Our school has a school festival in October. In the festival, we have a chorus contest and we practice hard to win the gold prize. Many people come to listen to our songs.

詳細は
26 頁

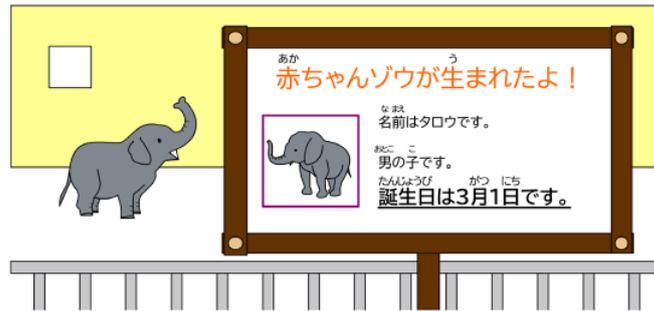
<課題及び指導改善に向けて>

- ③ 日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能に関しては、正答率約 1 割でかなり課題があり、全国と比較しても下回っている。

調査問題 1

動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、ゾウの誕生日を伝える短答式口述式問題（解答時間 7 秒）

知識・技能
話すこと



(スクリプト)

A baby elephant! How cute! ... I can read some Japanese. Its name is Taro... it's a boy... and, what does this say?

詳細は
27 頁

<課題及び指導改善に向けて>

(正答例) His birthday is March first.

2 兒童生徒質問紙調査結果

2 (1) 国語に関する児童生徒の興味関心

- ①「国語の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では増加しており、中学校では令和4年度より減少しているものの令和3年度よりは増加している。
- ②「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では増加しており、中学校では令和4年度より減少しているものの令和3年度よりは増加している。
- ③「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では増加しており、中学校では令和4年度より減少しているものの令和3年度よりは増加している。
- ④「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では増加しており、中学校では減少している。

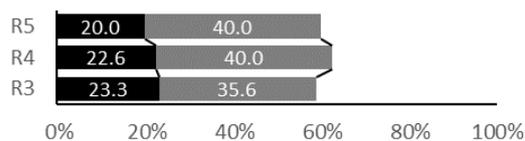
【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

【小学校】

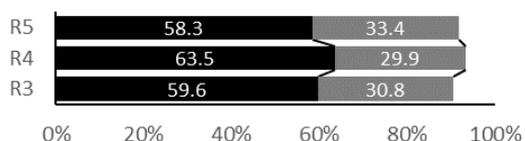
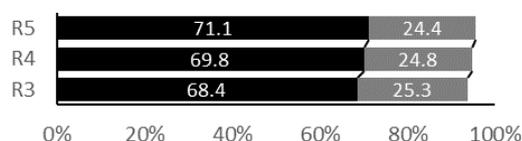
① 国語の勉強は好きですか



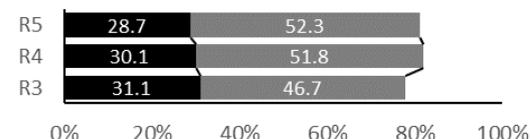
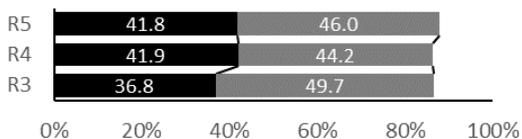
【中学校】



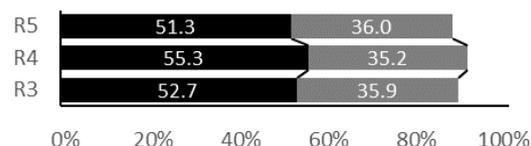
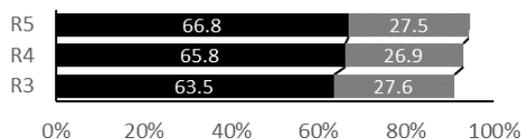
② 国語の勉強は大切だと思いますか



③ 国語の授業の内容はよく分かりますか



④ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか



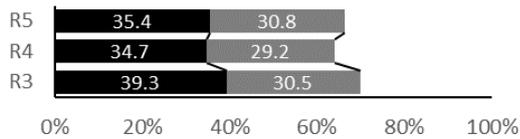
2(2) 算数・数学に関する児童生徒の興味関心

- ・小学校では、①～④の質問全てにおいて、肯定的な回答をした児童生徒の割合は令和4年度よりも増加している。
- ・中学校では、①～④の質問全てにおいて、肯定的な回答をした児童生徒の割合は令和4年度よりも減少している。

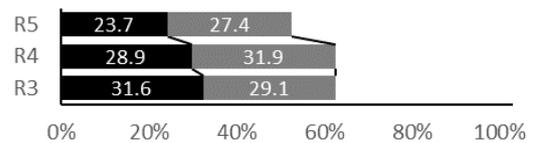
【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

【小学校】

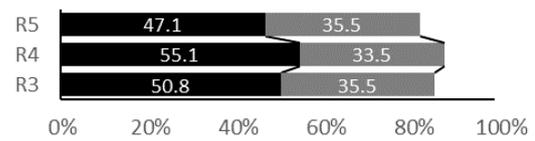
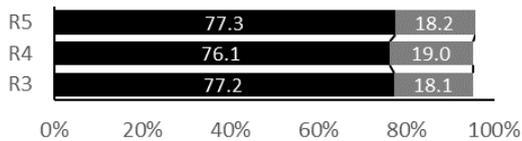
① 算数・数学の勉強は好きですか



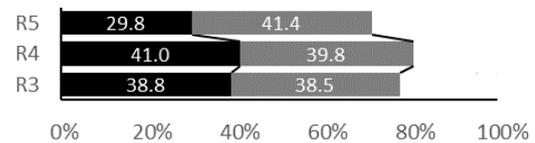
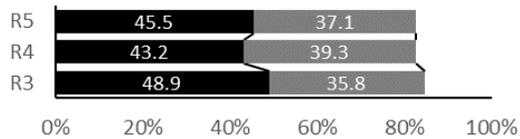
【中学校】



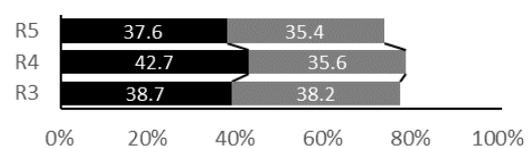
② 算数・数学の勉強は大切だと思いますか



③ 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



④ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか



2(3) 英語に関する生徒の興味関心 (中学校のみ)

- ①「英語の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、令和3年度より減少している。
- ②「英語の勉強は大切だと思いますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、約9割である。
- ③「英語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、令和元年度(平成31年度)より減少している。
- ④「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、令和元年度(平成31年度)より増加している。

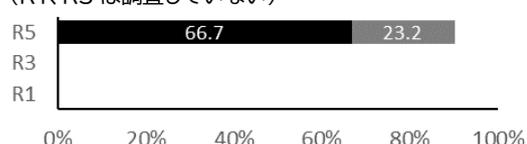
【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

【中学校のみ】

① 英語の勉強は好きですか



② 英語の勉強は大切だと思いますか (R1、R3は調査していない)



③ 英語の授業の内容はよく分かりますか (R3は調査していない)



④ 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか (R3は調査していない)



2(4) ICT機器を活用した学習状況

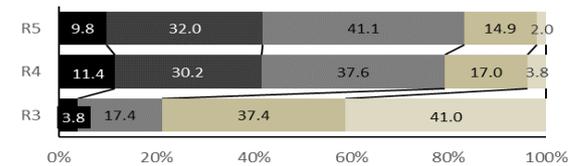
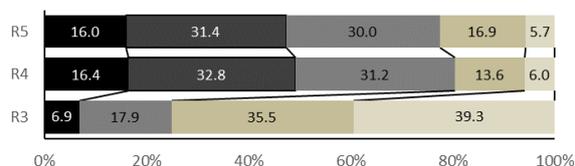
- ①「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問に対する回答から、ICT機器の使用頻度は令和3年度より高まっており、特に中学校での使用頻度の高まりが顕著であると言える。
- ②「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに9割を超え、令和4年度と同様に高い割合である。

【小学校】

【中学校】

① 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

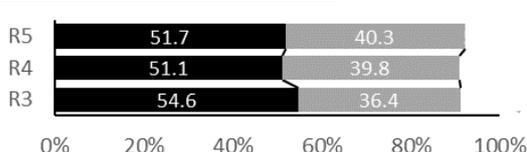
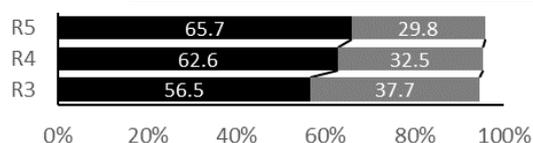
【凡例】 ■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満



※ R3においては、「ほぼ毎日」、「週1回以上」、「月1回以上」、「月1回未満」の選択肢であったため、「週3回以上」と回答した学校はない。

② 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

【凡例】 ■ 役に立つと思う ■ どちらかといえば、役に立つと思う



2(5) 特別活動・道徳における状況

- ①「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校ではやや増加しており、中学校は令和4年度とほぼ同程度である。
- ②「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校ではやや増加しており、中学校は令和4年度とほぼ同程度である。

【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

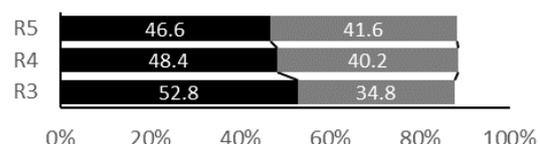
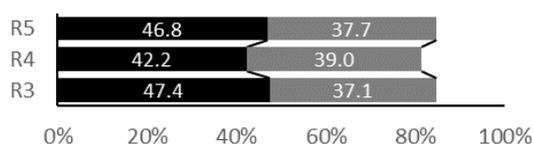
【小学校】

【中学校】

- ① 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか



- ② 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか



2(6) 総合的な学習の時間における状況

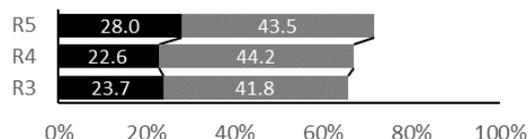
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、着実に増加している傾向にある。特に、中学校において「当てはまる」と回答した生徒の割合が増えている。

【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

【小学校】

【中学校】

- ◇ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか



2(7) 自己肯定感等に関する状況

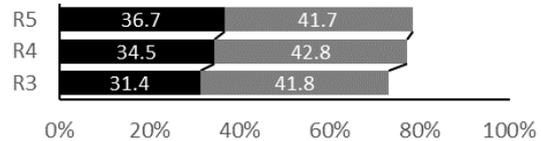
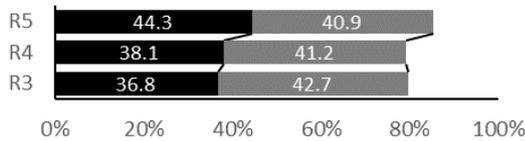
- ①「自分には、よいところがあると思いますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに増加している。
- ②「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では増加しており、中学校は令和4年度とほぼ同程度である。
- ③「学校に行くのは楽しいと思いますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに約7～8割の間で推移している。
- ④「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では増加しており、中学校は令和4年度とほぼ同程度である。

【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

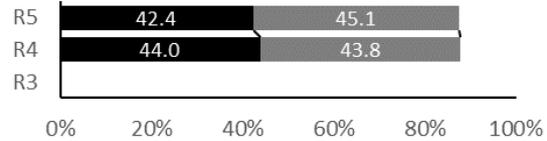
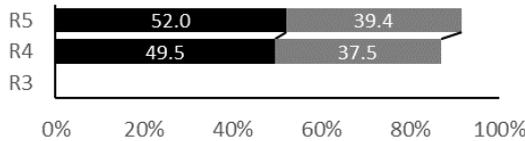
【小学校】

【中学校】

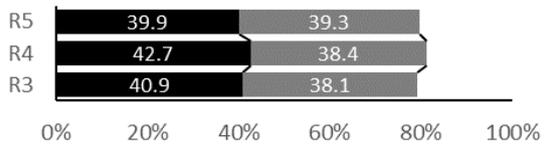
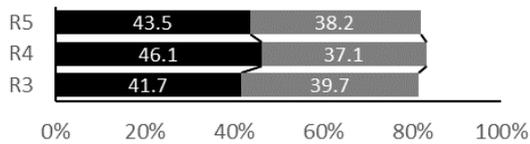
① 自分には、よいところがあると思いますか



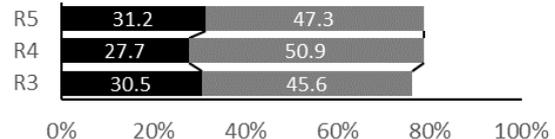
② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか (※R3は調査していない)



③ 学校に行くのは楽しいと思いますか



④ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



2(8) 主体的・対話的で深い学びの視点から

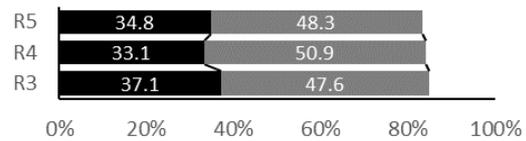
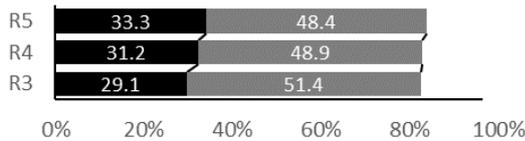
- ①「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに8割を超えている。
- ②「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、8割を超えている。
- ③「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校ではほぼ同程度で推移し、中学校では減少している。
- ④「前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校ではほぼ同程度で推移し、中学校では減少している。

【凡例】 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

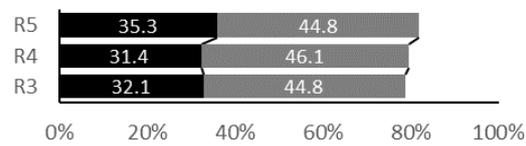
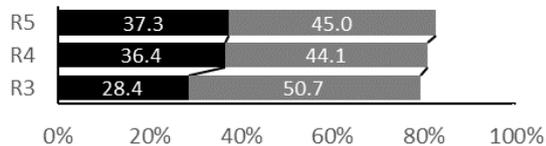
【小学校】

【中学校】

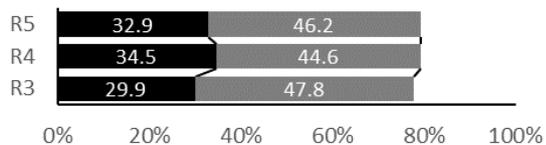
- ① 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



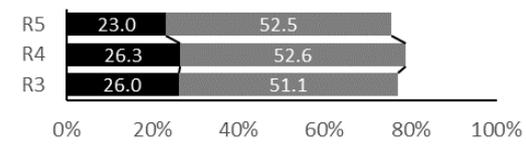
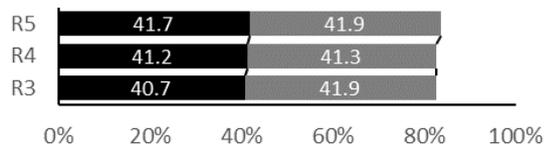
- ② 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



- ③ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



- ④ 前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと思いますか



3 課題及び指導改善に向けて

※「3 課題及び指導改善に向けて」は、松本市内の公立小学校・中学校に勤務する教職員を対象とした内容で、授業改善の方向を共有する趣旨のものです。